

県民の幸福感に関する分析方針（案）

I 分析目的

政策推進プランの進捗状況を把握するために行う政策評価に、県民意識調査の結果を通じて県民の実感を反映し、政策等の検討材料とすることを目的として実施する。

II 基本的考え方

本部会における分析とは、県民意識調査により得られた分野別実感について、その変動した要因等を分析することを指し、県は、この分析によって得られた結果を政策評価の仕組みに基づくマネジメントサイクルに活用する。

詳細分析の対象は、政策推進プランの推進において設定された 10 の政策分野に係る分野別実感のうち、実感が低下した分野を優先的に分析することを基本とする。

III 分析手順

- 1 県民意識調査結果より分野別実感の時系列変化の有無を t 検定で検証
- 2 分析対象を選定（実感が低下した分野に加え、上昇した分野も必要に応じて選定）
- 3 2 で選定した対象分野の属性差の有無（対基準年）を一元配置分散分析で検証
- 4 分野別実感の変動要因について、以下の手法により推測
 - ① 分野別実感の変動に影響を与えた属性に係る補足調査の回答結果から変動要因を検証
 - ② 補足調査で得られた分野別実感の回答理由から変動要因を推測

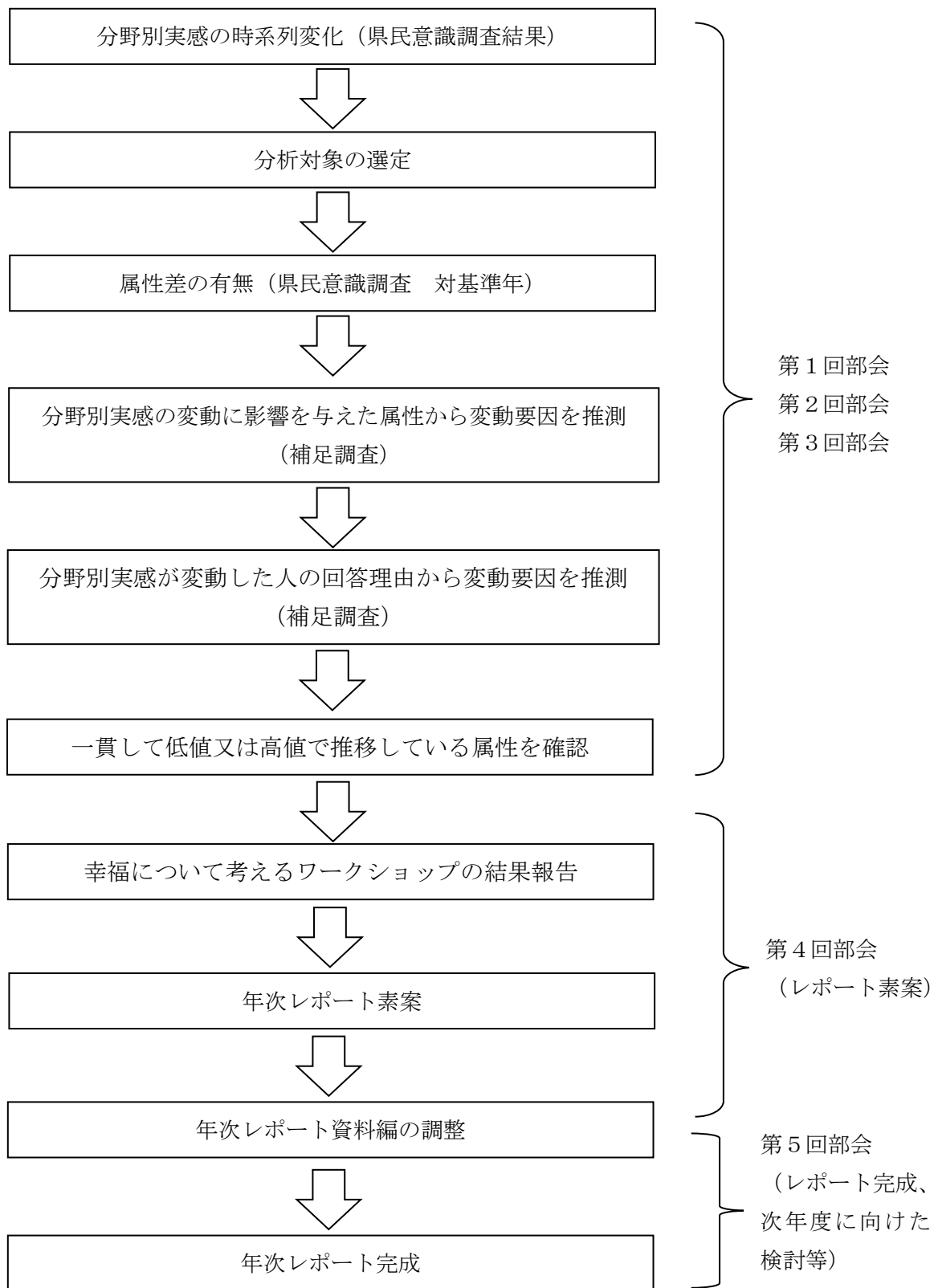
実感が上昇した分野にあつては、補足調査においてその分野の実感が上昇した人の回答理由として多いものを、実感が低下した分野にあつては、補足調査においてその分野の実感が低下した人の回答理由として多いものを選定し、検証。

なお、令和 4 年に補足調査に追加した「心身の健康」の実感に係る理由の解析については、以下の手順とした。

- a) 「心身の健康」の実感変動で選別
- b) 「からだの健康」と「こころの健康」の実感を踏まえ、以下の通り分類（以下、「からだの健康」で例示）
 - ・ 実感が上昇した人：「心身の健康」の実感上昇＋「からだの健康」の実感（「感じる」及び「やや感じる」と回答）
 - ・ 実感が横ばいの人：「心身の健康」の実感横ばい＋「からだの健康」の実感（「どちらでもない」と回答）
 - ・ 実感が低下した人：「心身の健康」の実感低下＋「からだの健康」の実感（「あまり感じない」及び「感じない」と回答）

- 5 平成 28 年から令和 5 年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して低値（3 点未満）又は高値（4 点以上）で推移している属性を確認
- 6 5 に該当する属性については、補足調査結果より低値又は高値で推移している要因を推測
- 7 追加分析として、新型コロナウイルス感染症の影響について、影響を受ける前の令和 2 年調査と実感の変化について比較分析
- 8 以上の結果について、年次レポートとして作成

【分析フロー】



【追加分析】

